



戦後80年 戦争遺跡を訪ね平和を考えてみよう

今から80年前の夏、1945(昭和20)年8月15日の正午、天皇はラジオ放送を通じて国民に日本軍の無条件降伏を求めたポツダム宣言を受諾し戦争を終結する決断をしたことを伝えました。宣言の受諾は前日の14日、アメリカ・イギリス・そして中国に代表される連合国との降伏文書への調印による正式な終結は翌月の9月2日ですが、日本では天皇によるラジオ放送のあったこの日を一般的に「終戦の日」としています。

この日は、一つの戦争が終わった日であるばかりでなく、明治維新から外国を相手に何度も戦争を繰り返してきた日本の戦争の歴史が終わった日であり、これまで戦争に勝ち続けていた日本が初めて負けを認めた日でもありました。

主にアメリカを相手とした最後の戦争はこれまでの戦争と大きく違っていました。これまでの戦争は、日本の軍隊が外国に出兵して、外国で行っていました。日本にいる人たちは、家族が兵隊に取られたり、戦地で傷ついたり亡くなったりして悲しい思いをすることはあっても、直接自分たちの生き死に関わる場面に向き合うことはありませんでした。

最後の戦争は、開戦時の奇襲攻撃により、最初の半年間は連戦連勝で勢力範囲を広げていきましたが、アメリカが急速に軍勢力を回復してくると、連敗続きで占領地が取り返され、やがて大型爆撃機B29や艦載機と呼ばれる小型飛行機による空襲を日本の本土各地で受けるようになりました。沖縄では民間人を巻き込んだ地上戦も行われ、占領されてしまいました。

戦争による直接の被害が我が身にも降りかかってきたのです。そして、終戦2日前の8月13日、ここ大月の地も艦載機による空襲を受け、60人余りの死者と、全壊28棟を含め140棟を超える建物に被害が出ました。

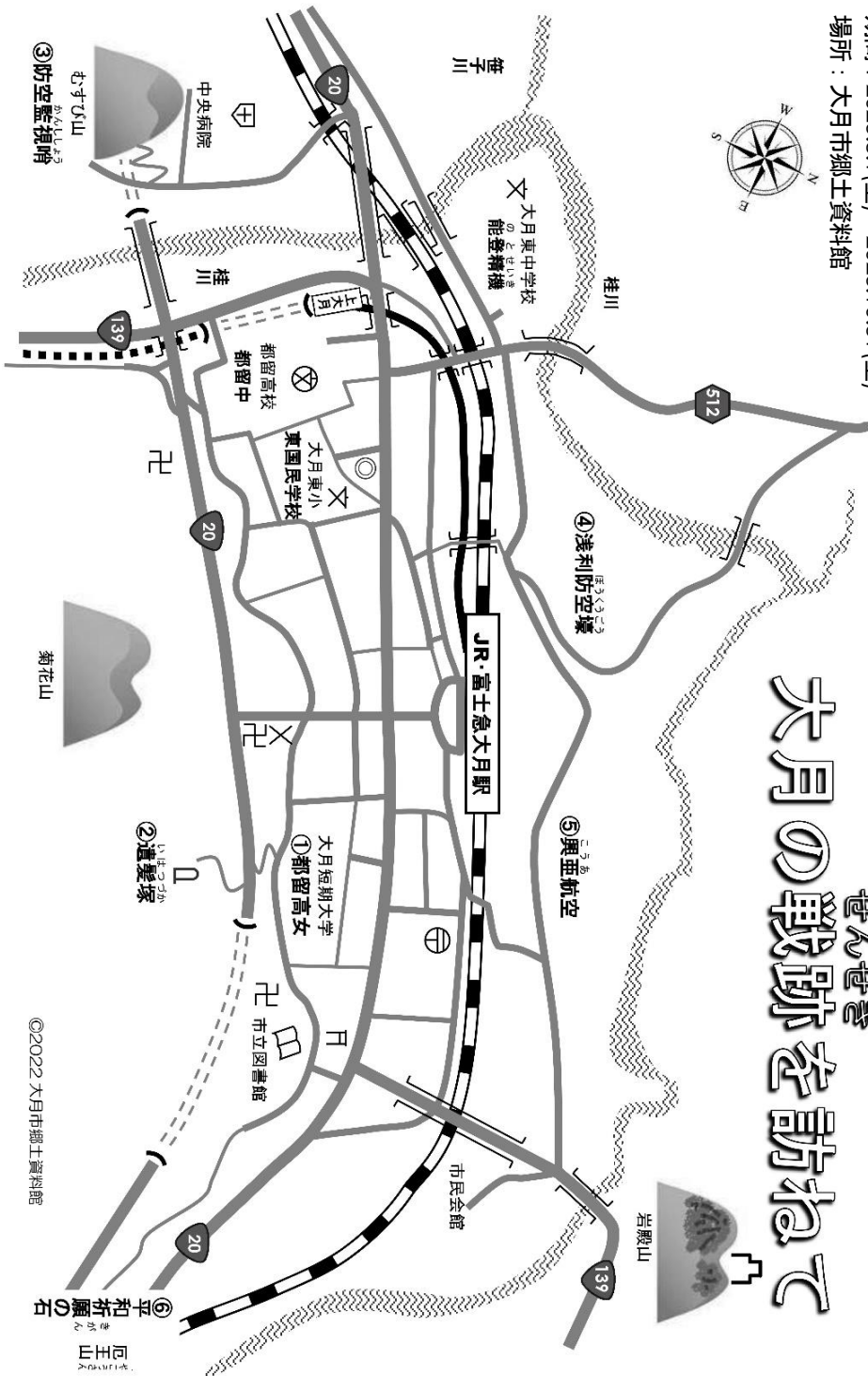
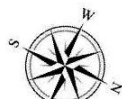
80年の時が流れ、街は様変わりして記憶も薄れてきましたが、当時の日本の軍勢力の貧弱さや空襲被害の惨状を伝える遺跡が今も各所に残されています。実際にそれらを見てみることを通して、戦争の愚かさや惨たらしさを知り、二度と戦争を繰り返さない平和な社会を創るために自分はどうしたらよいのかを考えてみましょう。



都留高等女学校生徒による防空訓練(1944)

特別展「大月空襲 一戦後80年―」
期間：2025.8.1(金)～2025.10.31(金)
場所：大月市郷土資料館

大月の戦跡を訪ねて



①県立都留高等女学校（現大月短期大学）



都留高等女学校では、学校工場として物資投下用の小さな落下傘を製造し、女学生たちが作業に従事していました。

校舎正面玄関東側近くに爆弾が落ち、警戒警報発令にともない学校防空要員として早朝より登校していた女学生、学校工場での作業に従事するために登校してきた女学生、合

せて20名が亡くなりました。他に教師2名、用務員夫婦も亡くなっています。

②遺髪塚（行願寺墓地内）

都留高女で亡くなった女学生たちの遺髪を埋葬した塚が行願寺墓地内にあります。

ちょうど都留高女を見下ろす場所にあり、塚碑の横には被災の状況と亡くなった女学生・教師・用務員の24名の氏名が刻まれている説明碑が建っています。



③防空監視哨（むすび山山頂）



います。大月市には、この他に七保と笹子にも設置されていました。

大月市立中央病院裏のむすび山山頂には、飛来する航空機を監視し、その情報を大月警察署に置かれた監視隊本部を通じて陸軍に報告する防空監視哨が置かれていました。

現在も跡地には、航空機の爆音を聞き取るための直径 3.5m、深さ 1.3m ほどの石積みの竪穴（聴音壕）と、その西に事務所の基礎が残って

④浅利防空壕（県道512号線浅利入口）

JRの浅利跨線橋北側から浅利橋に下りていく県道の南側の崖には、猿橋溶岩流による柱状節理の下にできた横穴がいくつもあり、防空壕として利用されていました。

防空壕に落ちた爆弾で、勤労働員先の興亜航空から避難してきた9名の都留中生が亡くなりました。

現在は、急傾斜地崩壊対策工事によりコンクリートで覆われているため、見るできません。



⑤興亜航空工場（大月駅北側）



大月駅北側の広大な空き地には、「興亜航空」があり、海軍の零式輸送機（つばさ）を製造していました。

ジュラルミンによる製造と並行して、木製翼の試作や、ベニヤ板で飛行場に置いておくだけの（おとり）飛行機も造っていました。

都留中や都留高女の生徒たちが学徒勤労働員で作業に従事していました。

⑥平和祈願の石（駒橋厄王山境内）

強瀬川（桂川）に爆弾が落とされ、その爆風で吹き飛ばされてきた大きな石が、厄王山近くに落下しました。

幸いにして地区住民には何の被害もなく、これを厄王大権現の不思議な力によるものと感謝し、この石を「平和祈願の石」と名づけて境内に安置しました。

碑文には、石の重さは1.5トン、吹き上げられた高さは100mあまりとあります。

